

離床センサー 現場レポート！

VOL.27
Aug. 2011

「離床センサーをお使いの現場から、様々な工夫をご紹介します！」

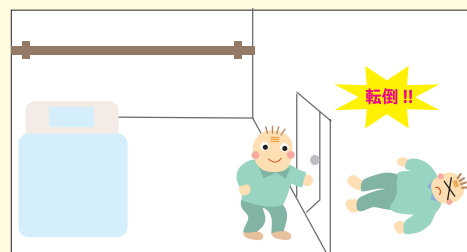
在宅において起き上がりタイプの離床センサーで徘徊、転倒を防止されているO様の事例をご紹介します！

在宅で介護・O様

ご使用機種： 家族コール1・Aタイプ→Bタイプ

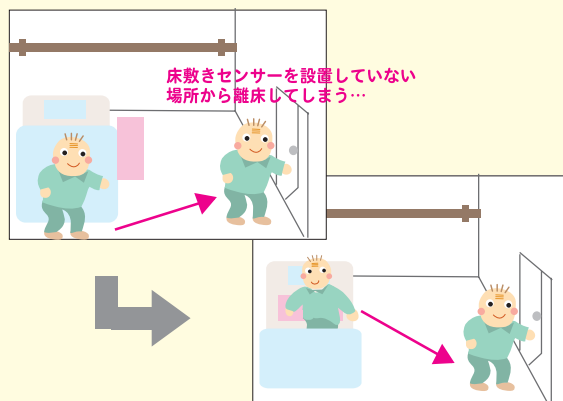
課題

認知症による認知力低下と身体能力低下により、要介護3と認定され、特別養護老人ホームへの入所待ちのため、在宅にて療養中。
介護用ベッドをレンタル使用していた際に転落したことがあり、転落防止のため現在は布団で寝ている。また、夜間一人でトイレに行くこともあり、段差につまづいて転倒しかけたことがあった。

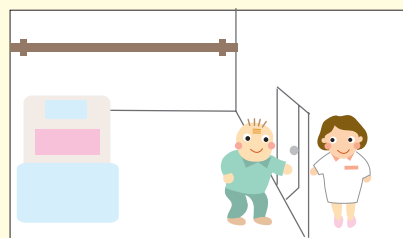


対策

①床敷きセンサーの「家族コール1・Aタイプ」を使用。しかし、布団の片側にセンサーを設置して使用するので、設置していない側から離床することもあり、報知ができなかった。



②布団の上に敷くセンサー「家族コール1・Bタイプ」を使用。寝心地への影響を考慮し、敷布団カバーの内側にセンサーを設置。



効果

布団からの起き上がりを確実に家族に知らせることにより、適切なタイミングで介助が行え、転倒事故を防止できた。



介助の際のご注意！

「ベッドセンサー」はベッド幅に対し横向き、対象者の肩～背中中の位置に設置しますが、介助をする際ついセンサーに膝をつき、内部電極消耗に繋がるということがあります。

センサーには局部的に過度の荷重がかからないよう、また、荷重をかけ電極内部に振れが生じないようにご注意ください。



ベッドセンサーの場合、少し斜めに設置することで介助の際に膝がつくということなどを避けることもできます。ただし、寝返りで鳴ったり、センサーが臀部にかかっていることで起き上がりでも報知をしないということにならないよう設置には十分にご注意下さい。

